

本号の岩手医大歯学会雑誌から

この頁は……

本号に掲載されている論文の内容を手っとり早く把握して頂き、歯科臨床との関わりを紹介する頁です。各論文の指導教授あるいは、これに準じる方に紹介の労をとっていただきました。本号のもう一つの目次として御利用下さい。

ブタ気管支平滑筋の収縮および細胞内 Ca^{2+} イオン濃度に対するカフェインの作用

佐藤 雅仁 他6名

種々の薬剤の気管支平滑筋に対する作用を明らかにすることは麻酔臨床上重要なことの一つである。本研究は近年開発された細胞内カルシウムイオン濃度と収縮張力を同時測定する方法を用いて、高濃度カリウム及びヒスタミン刺激の際の気管支平滑筋の細胞内カルシウムイオン濃度変化と張力に対するカフェインの作用について検討したものである。その結果、カフェインはブタ気管支平滑筋のヒスタミン刺激に対して、細胞内カルシウムイオン濃度に依存しない収縮抑制作用を持つことなどが示唆された。
(本号75頁) (城 茂治 記)

口腔からの *S. aureus* の分離と抗菌薬感受性

石山 京子 他2名

黄色ブドウ球菌は化膿性疾患の起炎菌としてよく知られているが、一方では口腔内の常在菌の一つでもある。ヒト口腔内からの黄色ブドウ球菌の分離については、古くから行われているが年齢そして材料、分離方法などの違いによりその成績も一定していない。本研究は健康成人の歯垢、唾液から分離した黄色ブドウ球菌について、コアグラゼ型別、溶血毒、エンテロトキシン、TSST-1などの産生そして抗菌薬感受性について検討した。
(本号85頁) (金子 克 記)

ゴールデンハムスター舌におけるリンパ管の走行

陳 寛宏 他1名

口腔領域の癌のうち、舌癌は転移率が高く、反対側転移が認められる。本論文では、舌の内部のリンパ管の走行を5'-Nase染色にて観察した。舌の内部には、舌深動脈伴行集合リンパ管、舌中隔内集合リンパ管、オトガイ舌筋筋束に沿って口腔底に向かう3経路が認められた。舌中隔内集合リンパ管は左右からのリンパが舌中隔内で一本にまとまっており、左右の交叉が認められた。オトガイ舌筋に

沿って口腔底に向かう経路は齧歯類では左右の交叉が認められた。横舌筋の発達の程度が左右のリンパ管の交叉を司るものと類推された。

(本号 91 頁) (野坂洋一郎 記)